平成２７年５月２８日
国土交通省東北地方整備局
北上川ダム統合管理事務所

記者発表資料

"胆沢ダム建設事業"が『ダム工学会 技術賞』を受賞

胆沢ダム工事事務所が実施した**胆沢ダム建設事業**が、(一社)ダム工学会の平成２６年度**「技術賞」を受賞**しました。

胆沢ダムは、我が国初のロックフィルダムである「石淵ダム」の再開発として平成２５年度完成しました。総貯水容量が石淵ダムの約９倍となる国内最大級のロックフィルダムです。

”胆沢ダム建設事業”は、ＣＭ（コンストラクションマネジメント）方式によるコスト縮減、ＧＰＳ搭載重機など合理化施工による工期短縮、堤体施工中に発生した2度の巨大地震に対する震災復旧等について、「ダム技術の発展に著しい貢献をなしたと認められた画期的な事業」として評価されました。

表彰状と記念楯（設計施工管理・施工者との共同受賞）



◇ダム工学会技術賞とは・・・。

本賞は、一般社団法人ダム工学会が設置し、ダム技術の発展に著しい貢献をなしたと認められた画期的な事業を実施した個人又は団体に対して授与するもので、平成４年に創設された賞です。

〈発表記者会：岩手県政記者クラブ〉

【問い合わせ先】
国土交通省　東北地方整備局　北上川ダム統合管理事務所
盛岡市下厨川字四十四田１
電話：０１９－６４３－７８３１（代表）
副所長（管理担当）　菅原　裕彦（内線２０４）
（施設担当）　大入　敏夫（内線２０５）

胆沢ダム建設事業

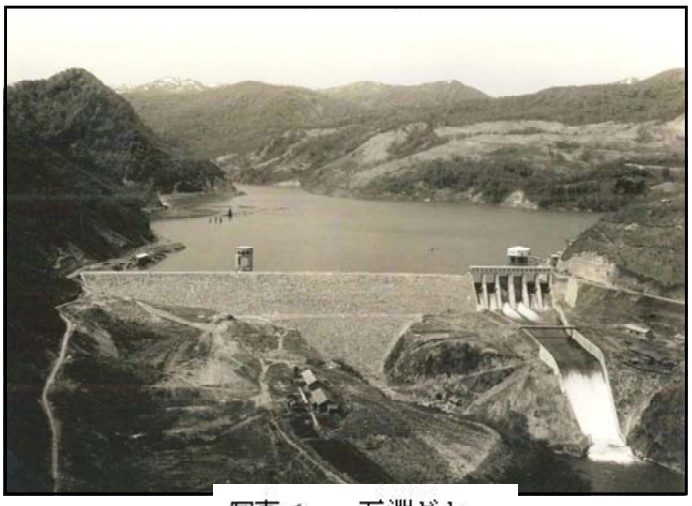

写真-1　石淵ダム

「石淵ダム」

昭和21年着工、同28年完成。
日本人技術者が海外の文献等を参考に工学的に設計した本邦初のロックフィルダム。終戦直後の疲弊した国土の再建のため、幾多の困難を克服、北上特定地域総合開発(KVA)第1号のダムとして完成。
以来60年間、戦後日本の復興、成長を底辺で支え続けた。



写真-2　胆沢ダム

「胆沢ダム」

昭和63年着工、平成25年完成。
胆沢扇状地の扇頂に21世紀初頭、新たな水文化を創造する水瓶が誕生。
石淵ダムの持つ機能を大幅に増強し、頻発する北上川の洪水や水道用水の供給などの新たな要請に対応する。
平成20年岩手・宮城内陸地震では震源から至近距離にあったため、震度6強の揺れによりダム堤体などの被災が確認されたが、施工の工夫を経て完成に至っている。

胆沢ダム・石淵ダムの諸元

	石淵ダム	胆沢ダム	比較
型　　式	コンクリート表面遮水壁型ロックフィルダム	中央コア型ロックフィルダム	―
堤頂標高 (EL.m)	323.0	364.0	―
堤　　高 (m)	53.0	127.0	2.4倍
堤頂長 (m)	345.0	723.0	2.1倍
堤体積 (m^3)	442,500	13,500,000	30倍
湛水面積 (m^2)	1.1	4.4	4倍
総貯水容量 (m^3)	1,615万	1億4,300万	9倍
有効貯水容量 (m^3)	1,196万	1億3,200万	11倍